

攝津國行程一日 調略○中 明櫃十合、大明櫃二百卅五合、小明櫃一百八十四合、

〔續修東大寺正倉院文書後集〕六 錢用帳

同日○天平寶字六年閏十二月六日 下錢壹伯肆拾陸貫壹伯拾玖文○中略

八十文明櫃二合直合別冊文

〔執政所抄四月〕御賀茂詣事○中申日

長櫃二合

横板四枚長一丈二尺、弘一尺五寸、 尻板二枚長八尺五寸、弘五尺六寸、 蓋板二枚長八尺九寸、弘二尺五寸、 鬘木樽二寸各一丈一尺、

厚二寸、小豆木八支長二尺三寸、厚二寸、 大豆木二支長五尺、厚五寸、 算木二支大二寸、厚三寸、長八尺五寸、弘三寸、

三寸、弘三寸、枋二支長一丈二尺、口徑二寸、○中略

已上檜物御庄探進之、兼日下知下文了、於京作調之、

〔土左日記〕七日○承平五年正月 になりぬ○中 人の家のいけと名ある所より、鯉はなくてふなよりはじ

めて、川のも海のもことものも、長びつになひつゝけておこせたり、

〔枕草子〕五 おもしろき萩すゝきなどを、うゑて見るほどに、ながびつもたる物、すきなどひきさげ

て、たゞほりにほりていぬるこそ、わびしうねたかりけれ、

〔續古事談〕二臣節 宇治殿平等院ツクリテ、庄園寄ラレケルトキ、所々ノ米ヲスコシヅ、長櫃ノ蓋ニ、

スナゴノヤウニマキナラベテ、○下略

〔古今著聞集〕十九草木 嘉保二年八月廿八日、上皇鳥羽殿にて、前裁合ありけり、○中 右方の人々参りて

灯臺をたつ、○中 せんざい五なり、長櫃武者所各二人かきて、階の西にこれをおく、透長櫃に丹青

をほどこして、つくりばなをもてかざりたり、

〔看聞日記〕永享四年九月九日、抑入夜自室町殿小長櫃一合有金物 入松茸木練折一合、賜之、三條執